

到達目標レベル表

1. 成長する存在である子どもに影響を与えることを自覚し、行動・発言できる。

小項目	評価4〈改善した行動〉	評価3〈思考・行動・省察〉	評価2〈行動する〉	評価1〈観る・試みる〉
(1) 相手にとって気持ちの良い挨拶を行い、コミュニケーションを積極的に取ろうとする。	相手にとって気持ちの良い挨拶を行い、コミュニケーションが取れる。 ・積極的にコミュニケーションを取り、信頼関係を築く。	相手にとって気持ちの良い挨拶を行おうとし、コミュニケーションを図ろうとする。 ・相手の様子の変化に気づき、声をかけることができる。 ・適切に情報を伝えることができる。	自ら進んで挨拶を行う。 ・明るく挨拶することができる。 ・相手の声のトーンや表情に気づき、それに合わせた挨拶ができる。	挨拶をしようとする。 ・他の保育者が子どもに対してどのように挨拶をしているかを観る。 ・保育現場にふさわしい声のトーンや表情がどのようなものかを感じ取り、状況に応じた挨拶をしようとする。
(2) 子どもを一人の人間として尊重し、適切な言葉がけや接し方ができる。	子ども一人ひとりを尊重し、個々に合わせた適切な言葉がけや接し方ができる。 ・子どもの行動に対応した、肯定的な言葉がけや関わりができる。	発達段階に適した言葉がけや接し方ができる。 ・子どもの発達段階に即した、言葉がけや関わりができる。	積極的に言葉がけを行う。 ・子どもの視線に合わせて話すことができる。 ・各年齢の子どもの姿を知り、積極的に言葉がけを行う。	子どもと関わりを持とうとする。 ・子どもの視線に合わせて話そうとする。 ・他の保育者が子どもに対してどのような言葉をかけているのか、観る。 ・各年齢の子どもの姿を観る。
(3) 子どもに影響を与えることを自覚し、身だしなみを整え、健康管理に留意している。	身だしなみを整え健康管理に留意することができる。 ・自らの体調が周囲に影響を与えることを自覚し、健康を維持する。	身だしなみを整え健康管理に留意する。 ・季節や体調など、状況に合わせた服装を整えることができる。 ・感染症にかかっている可能性を考慮して、感染が広がらないよう行動できる。	自ら身だしなみを整え体調維持に努める。 ・自身が体調を崩した場合の適切な対処方法を知っており、電話連絡等が自らできる。 ・自身の健康状態について説明できる。 ・保育者としてふさわしい服装で保育現場に入ることができる。	身だしなみを整え健康に気を付けようとする。 ・保育者としての手洗いやうがいの必要性を知る。 ・保育者としてふさわしい服装を知り、自覚する。 ・自身の健康状態について把握できる。
(4) 常に相手にとって温かみのある態度で接し、保育者であることを自覚している。	常に相手にとって温かみのある態度で接し、保育者であることを自覚できる。 ・話しかけやすい雰囲気を持ち、相手が安心感を持てるような対応ができる。	相手にとって温かみのある態度で接し、保育者であることを自覚している。 ・受容的な態度で話を聴くことができる。	あたたかみのある保育者であるように努める。 ・子どもに対して、正しい言葉遣いや行動ができる。 ・相手の気持ちを汲み取ろうとしながら、笑顔で1人1人と関わる。	保育者として接しようとする。 ・保育者にふさわしい態度とは何かを知る。

II. 子どもにふさわしい環境を創り出し、一緒に遊びこむことができる。

小項目	評価4〈改善した行動〉	評価3〈思考・行動・省察〉	評価2〈行動する〉	評価1〈観る・試みる〉
(1) 子どもの発達観、興味関心を踏まえつつ、目の前の子どもにふさわしい保育環境について考える。	子どもの発達観を踏まえつつ、目の前の子どもにふさわしい保育環境について考えることができる。	子どもの発達観、興味関心を踏まえつつ保育環境について考えられる。	子どもの発達観を踏まえた保育環境に気づく。	子どもの保育環境に興味を持つ。
	・子どもが興味関心をもって関わりたくなるような、保育環境を創ることができる。	・子どものつぶやきなどから、どのようなことに興味をもっているのか感じ取り保育環境を考える。	・子どもの発達に応じた保育環境を構成する上での工夫について気付くことができる。	・保育環境を観る。 ・子どもがどのようなことに興味関心を持っているのかを観る。
(2) 安全面、衛生面に留意して保育環境をつくる。	危険を予測して安全で衛生的な保育環境を創ることができる。	安全で衛生的な保育環境を創る。	安全で衛生的な保育環境に気づく。	安全で衛生的な保育環境に興味を持つ。
	・子どもの主体的な活動を大切にしつつ、事故防止のための安全で衛生的な保育環境を創ることができる。	・子どもの発達観に基づき、行動を予測した事故防止のための安全を配慮した保育環境を創る。	・施設の温度や湿度などの、衛生上適切な環境を知る。 ・子どもの発達観に基づき、行動を予測した事故防止のための安全上の配慮を知る。	・何が危険なのかを知る。 ・保育で安全面・衛生面に留意していることに気づく。 ・感染症に関する厚生労働省のマニュアルや園の対応マニュアルを見る。
(3) 子どもが遊びを深められるように場面に応じて関わることができる。	子どもが自ら遊びを深められるように場面に応じて関わることができる。	子どもの遊びが深まるように応答性をもって関わる。	子どもが遊びたくなるような保育環境に気づく。	子どもの遊びに関わろうとする。
	・子どもからの発信を捉えて遊びを発展させることができる。	・子ども同士の関わりを大切にして必要に応じて援助する。 ・子どもが遊びこむことができるよう、保育環境を整え、働きかける。	・保育環境と子どもの遊びの関係について気づく。 ・遊びの環境として複数の友達と遊ぶ遊具やコーナーが工夫されていることに気づく。	・子どもがどのように遊んでいるのかを観る。 ・子どもたちとの関わりの中で遊びの楽しさを共有する。
(4) 子どもが遊びを発展させることができるように保育環境を再構成する。	子どもが遊びを発展させることができるように保育環境を再構成することができる。	子どもが遊びを発展させることができるように保育環境を工夫する。	子どもが過ごしやすい環境に気づく。	子どもが遊びたくなるような保育環境に興味を持つ。
	・子どもの主体性を大事にし、自ら遊びを発展させられるようにする。	・子どもが遊びを発展させたいような保育環境を構成しようとする。	・遊びの流れに沿って保育者が環境構成をしている姿を観る。	・子どもの興味・関心に応じた働きかけや、保育環境の構成に興味を持つ。

Ⅲ. 相手の気持ちを理解し、受け容れようとする。

小項目	評価4〈改善した行動〉	評価3〈思考・行動・省察〉	評価2〈行動する〉	評価1〈観る・試みる〉
(1) 子どもの様子をよく観て、子どもを理解している。	子どもの様子をよく観て、第三者の視点も含めて子どもを多角的に理解しようとする。	子どもの様子をよく観て子どもを理解しようとする。	子どもの様子をよく観ることができる。	子どもの様子を観ようとする。
	・他の保育者のもつ子どもへの視点も共有し、理解を深める。	・言葉や行動から子どもの気持ちを受け止めようとする。	・分け隔てなく、子どもを観ることができる。	・子どもの言葉・行動・表情に注目して観る。
(2) 共感をもって子どもを受けとめ、言葉や行動で伝える。	共感を持って子どもを受け止めた上で接し、自身の言動についてふりかえりを大切にすることができる。	共感を持って子どもを受け止め、言葉や行動で伝えることができる。	子どもを受け止め、言葉や行動で伝えることができる。	子どもを受けとめ言葉や行動で伝えようとする。
	・子どもが認められたと実感できるように対応ができたか、省察する。	・子どもが認められたと実感できるように対応する。	・子どもの気持ちを受け止め、子どもの気持ちに寄り添いながら言語化することができる。	・子どもの言葉や行動の背景を想像し、言葉がけをする。
(3) 相手に言われたことを素直に受けとめ、共感をもって理解する。	相手に言われたことを素直に受けとめ、共感をもって理解することができる。	相手に言われたことを素直に受け止め、共感をもって理解しようとする。	相手に言われたことを素直に受け止め、理解しようとする。	相手に言われたことを素直に受けとめようとする。
	・相手の発する言葉や行動に共感し、理解を深める。	・相手の言葉や行動の背景を想像し、受け止める。	・相手の意図を受け止めて理解しようとする。	・相手の話を最後まで聴く。
(4) 相手に対して、自分が受けとめたことを示し相互理解に努め、協働的に行動することができる。	相手に対して自分が受けとめたことを示し相互理解に努め、協働的に行動することができる。	相手に対して自分が受けとめたことを言葉や行動で示すことができる。	相手が発した内容を、自分のこととして受け止めようとする。	相手の発した内容に興味を持つ。
	・問題解決に向けて、共に考える。	・共感したことを言葉で伝える。	・相手の立場に立って考えようとする。	・相手の話を興味を持って聴く。

IV. 自ら考え、提案、行動ができる。

小項目	評価4〈改善した行動〉	評価3〈思考・行動・省察〉	評価2〈行動する〉	評価1〈観る・試みる〉
(1) 保育の現場にいることを自覚し、進んで情報を集めて整理する中で、疑問に思うことをきちんと質問し、考えている。	保育の現場にいることを自覚し、進んで情報を集めて整理するなかで、疑問に思うことをきちんと質問し、考えることができる。	保育の現場にいることを自覚し、進んで情報を集めて整理することができる。	保育の現場において、情報を集めて整理することの大切さに気づく。	保育の現場において、情報を集めることに興味を持つ。
	・園外の研究会や学会から保育に関する情報を集めて整理することができる。	・書籍などから保育に関する情報を集めて整理することができる。	・現場で疑問に思ったことに対して、学校で学んだ保育理論などと照らし合わせて、考えを深める。	・保育の現場を観て疑問点を見出す。
(2) 保育に携わるなかで考えたことや自分が持った意見を他の保育者と共有している。	保育に携わるなかで考えたことや自分が持った意見を他の保育者と共有することができる。	保育に携わるなかで自分の意見を持つことができる。	保育に携わるなかで自分の意見を持つようとする。	保育に携わるなかで自分なりに考えようとする。
	・保育に携わる中で、保育観・保育方法などに対して共通認識を作る。	・保育に携わる中で自分の意見を述べることができる。	・意見交換や情報共有の必要性を知る。	・反省会やふり返りなどで保育者の話を聴く。 ・保育者との関わりの中で、保育者同士の連携の重要性に気づく。
(3) 保育の質の向上に資する提案をすることができる。	保育の質の向上に資する提案をすることができる。	より良い保育のイメージを持つことができる。	保育方法の多様性に気づきより良い保育のイメージを持つようとする。	保育方法の多様性に興味を持つ。
	・根拠に基づいて自らの意見を提案できる。	・より良い保育について、自分の意見として構築できる。	・学校で学んだことや他の保育者との意見交換からより良い保育について考える。	・多様な保育の方法があることを知る。
(4) 他の保育者と協調性を持ち、物怖じせずに積極的に行動できる。	他の保育者と協調性を持ち、物怖じせずに積極的に行動することができる。	物怖じせずに積極的に行動するとともに協調性の大切さに気づく。	物怖じせずに積極的に行動しようとする。	物怖じせずに行動しようとする。
	・他の保育者と協調性を持ち、建設的な意見交換を行なうことができる。	・他の保育者の動きを視野に入れながら、積極的に行動する。	・自身の考えに基づいて、失敗を恐れず行動する。	・他の保育者と率直に関わろうとする。

企業内実習に基づく目標・評価・振り返りレベル表(ループリック評価形式)

学科 年 氏名

大項目	小項目	評価3	評価2	評価1
円滑に職務を遂行するためにマナーの良い対応を行う能力	挨拶	明るい声や表情で挨拶を行う。	自ら進んで挨拶を行う。	挨拶をしようとしている。
	言葉使い	正しい敬語を使うことができる。	敬語を使うことが身に付いている。	敬語を使おうとしている。
	身だしなみ	常に職場の規定を尊重した身だしなみであり、他の模範となる。	職場の規定を理解し身だしなみに気を配っている。	身だしなみに気を配ってる。
	時間	出勤時間だけでなく、その他の約束時間なども常に守ることができる。	常に時間を守り行動することができる。	時間を守るということを意識している。
	清掃	清掃を楽しみながら行うことができ、身の回りを徹底的に綺麗にしている。	指示された箇所だけではなく、自ら進んで清掃を行う。	指示された箇所の清掃はできる。
社会人として必要な能力	職場でのコミュニケーション	協調して業務に従事し、職場の雰囲気作りにも貢献している。	常に協調性がある。	他の人とコミュニケーションを取ろうとしている。
	お客様とのコミュニケーション	お客様に対して、丁寧でわかりやすい対応を行うことができる。	接客会話を行うことができる。	お客様に伝えたい内容を伝えることはできる。
	積極性	指示を的確、迅速に行い常に自ら進んで考え行動している。	指示された業務以外にも常に積極的である。	指示された業務をミスなく行っている。
	責任感	いったん引き受けたことは途中で投げ出さず、最後までやり遂げる。	常に責任感を持って業務に従事している。	責任感を感じる時もある。
	実行力	前向きな気持ちですべての事柄に対して取り組むことができる。	目的が明確な事柄に対して積極的に行動できる。	指示をすれば実行することができる。
専門分野の企業内実習を行う上で必要な能力	企業内実習の目的の理解	企業内実習の目的を理解し、実習後の到達目標も設定している。	企業内実習の目的を理解し、実習を行っている。	企業内実習の目的を理解していない。
	企業概要の理解	会社の事業領域や組織形態について概要を理解している。	企業概要は概ね理解している。	企業概要を理解していない。
	施設の把握	館内の施設・設備について把握し、案内ができる。	館内の施設・設備について把握している。	一部の館内の施設については理解している。
	仕事に必要な知識の習得	業務内容はもちろん、お客様に説明できるレベルの商品知識も十分に習得している。	業務内容、商品知識を正確に把握し、接客している。	業務内容・商品知識を概ね理解している。
	仕事に必要な技術の習得	仕事に必要な技術を十分に習得し、効率よく業務を行うことができる。	業務内容をほぼ理解し、常に意識して行動していた。業務技術についても学ぼうとする姿勢が見られる。	業務内容を概ね理解している。

企業内実習に基づく目標・評価・振り返りレベル表(ルーブリック評価形式)

学科 年 氏名

大項目	小項目	評価4	評価3	評価2	評価1
円滑に職務を遂行するためにマナーの良い対応を行う能力	挨拶	相手にとって気持ちのよい挨拶をすることができる。	明るい声や表情で挨拶を行う。	自ら進んで挨拶を行う。	挨拶をしようとしらない。
	言葉使い	心のもった正しい敬語を使うことができる。	正しい敬語を使うことができる。	敬語を使うことが身に付いている。	敬語を使おうとする意志がない。
	身だしなみ	常に職場の規定を遵守した身だしなみであり、他の模範となる。	職場の規定を理解し身だしなみに気を配っている。	身だしなみに気を配っている。	サービス業の身だしなみとして不適切な点がある。
	時間	出勤時間だけでなく、その他の約束時間なども常に守ることができる。	常に時間を守ることができる。	時間を守るということを意識している。	時間を守るという意識が欠けている。
	清掃	清掃を楽しみながら行うことができ、身の回りを徹底的に綺麗にしている。	指示された箇所だけではなく、自ら進んで清掃を行う。	指示された箇所の清掃はできる。	清掃をしようとしらない。
社会人として必要な能力	職場でのコミュニケーション	上司、同僚と積極的に協力、協調を行い、周囲にもいい影響を与えている。	協調して業務をしっかりと行い、職場の雰囲気作りにも貢献している。	協調性がある。	チームワークを作ろうとする意識に欠けるところがある。
	お客様とのコミュニケーション	敬語や業務上必要な語学力を習得し、お客様への対応が優れている。	丁寧でわかりやすい対応を行うことができる。	接客会話を行うことができる。	お客様に伝えたい内容を伝えることはできる。
	積極性	指示を的確、迅速に行い常に自ら進んで考え行動している。	指示された業務以外にも常に積極的である。	指示された業務をミスなく行っている。	指示待ちの姿勢で、やる気に欠ける時がある。
	責任感	いったん引き受けたことは途中で投げ出さず、最後までやり遂げ、疑問に思うことがあれば事前に上司や同僚に確認をとる。	いったん引き受けたことは途中で投げ出さず、最後までやり遂げる。	責任を持って仕事を行う。	仕事に対しての責任感が弱い。
	実行力	強い意志のもと、小さな成果に喜びを感じながら、目標達成に向けて粘り強く取り組み続けることができる。	前向きな気持ちですべての事柄に対して取り組むことができる。	目的が明確な事柄に対して積極的に行動できる。	目的が明確でないため行動できない。目的を実行する意欲がない。
専門分野の企業内実習を行う上で必要な能力	企業内実習の目的の理解	企業内実習の目的を理解し、実習前の自己評価を行い自己の弱点を実習後には改善するという明確な目標を設定している。	企業内実習の目的を理解し、実習後の到達目標も設定している。	企業内実習の目的を理解し、実習を行っている。	企業内実習の目的を理解していない。
	企業概要の理解	会社の事業領域や組織形態についての概要、経営理念や社訓等の内容を理解し可能な範囲で実践している。	会社の事業領域や組織形態について概要を理解している。	企業概要は概ね理解している。	企業概要を理解していない。
	施設の把握	館内の施設・設備について把握し、案内ができる。	館内の施設・設備について把握している。	館内の施設について概ね把握している。	館内の施設・設備について把握していない。
	仕事に必要な知識の習得	業務内容はもちろん、お客様に説明できるレベルの商品知識も十分に習得している。	業務内容、商品知識を正確に把握し、接客している。	業務内容をほぼ理解し、常に意識して行動している。必要な知識についても学ぼうとする姿勢が見られる。	業務内容・商品知識への理解が不足している。
	仕事に必要な技術の習得	仕事に必要な技術を十分に習得し、効率よく業務を行うことができる。	業務内容を正確に把握し、丁寧かつ効率よく行動できる。	業務内容をほぼ理解し、常に意識して行動していた。業務技術についても学ぼうとする姿勢が見られる。	業務にかかわる技術への理解や取り組もうとする意欲も欠けている。

●実習評価総括表●

学校名：

学科名：

学生氏名：

実習期間： 年 月 日 ~ 年 月 日

実習機関：

- ・評価①(自己評価)と評価②(実習機関評価)を記入しましょう。
- ・①と②の結果の違いの要因を考え、記入しましょう。
- ・今後の目標、実行のためのプランを記入しましょう。

評価結果のまとめ

大項目	小項目	自己目標	①自己評価	②他者評価	①⇔②の差の要因
円滑に職務を遂行するためにマナーの良い対応を行う能力	挨拶				
	言葉使い				
	身だしなみ				
	時間				
	清掃				
社会人として必要な能力	職場でのコミュニケーション				
	お客様とのコミュニケーション				
	積極性				
	責任感				
	実行力				
専門分野の企業内実習を行う上で必要な能力	企業内実習の目的の理解				
	企業概要の理解				
	施設の把握				
	仕事に必要な知識の習得				
	仕事に必要な技術の習得				

【今後の目標】

企業内実習・フィードバック(評価)シート

記入日: 年 月 日

<記入者>

氏名 : _____ 印 _____

企業名・所属・役職 : _____

○学生・企業内実習情報

学生氏名	
学部・学科・学年	
企業内実習期間	年 月 日 ~ 年 月 日 (間)
受入企業・組織の名称	
担当した業務内容	・ ・ ・

○基本評価 (※該当を●、1 優れている、2 やや優れている、3 標準的、4 やや劣る、5 劣る)

基本評価項目	評価	評価コメント
取り組みの姿勢・態度	○1 ○2 ○3 ○4 ○5	
自己成長への意欲	○1 ○2 ○3 ○4 ○5	
担当した業務の達成度合	○1 ○2 ○3 ○4 ○5	

○行動評価 (※該当を●、1 優れている、2 やや優れている、3 標準的、4 やや劣る、5 劣る)

※貴社新入社員に求める水準に照らして、評価およびコメントをお願いします。

能力評価		評価	評価コメント
前に踏み出す力	主体性	○1 ○2 ○3 ○4 ○5	
	働きかけ力	○1 ○2 ○3 ○4 ○5	
	実行力	○1 ○2 ○3 ○4 ○5	
考え抜く力	課題発見力	○1 ○2 ○3 ○4 ○5	
	計画力	○1 ○2 ○3 ○4 ○5	
	創造力	○1 ○2 ○3 ○4 ○5	
チームで働く力	発信力	○1 ○2 ○3 ○4 ○5	
	傾聴力	○1 ○2 ○3 ○4 ○5	
	柔軟性	○1 ○2 ○3 ○4 ○5	
	状況把握力	○1 ○2 ○3 ○4 ○5	
	規律性	○1 ○2 ○3 ○4 ○5	
	ストレスコントロール力	○1 ○2 ○3 ○4 ○5	

※大学の教育方針・企業内実習の目的等により追加すべき評価項目があれば項目を追加してください。

○人物評価

強み／長所と考えられる点

--

今後努力を要すると考えられる点

--

○学生への今後の成長に向けたメッセージ

--

○学校教職員への申し送り事項

--

(書類の流れ： 企業内実習先企業担当者[作成]→学生・教職員)

企業内実習・評価表例

学生氏名、企業名、実習期間、
監督員氏名、出欠状況等を記入
する。

「1 意欲・態度面の評価」、「2職
務能力面の評価」、「3 総括評価」
の各項目に☑してもらおう。

施工実習用

企業内実習・評価表

平成 年 月 日

学生氏名			企 業 名		
実習期間	月 日～	月 日	監督員氏名		
出欠状況	出席 () 日	欠席 () 日			
	遅刻 () 日	早退 () 日			

※実習中の学生の態度・能力について、気づかれた点について評価をお願いします。評価しにくい部分は、空欄としてください。

1 意欲・態度面の評価

評価項目	可	不可
①実習時の身だしなみ	<input type="checkbox"/> 職業人としての適切	<input type="checkbox"/> 職業人として不適切
②実習全般の態度・動作	<input type="checkbox"/> まじめ・熱心	<input type="checkbox"/> 不真面目・不熱心
③職場での言葉遣い	<input type="checkbox"/> 目上の人に敬語を使用	<input type="checkbox"/> 敬語が使えない
④実習意欲・積極性・自発性	<input type="checkbox"/> 意欲的・積極的・自発的	<input type="checkbox"/> 無気力・指示待ち
⑤安全に関する適切な行動	<input type="checkbox"/> 安全ルールを厳守	<input type="checkbox"/> 安全ルールに不注意
⑥職場規律の遵守	<input type="checkbox"/> 職場規律・ルールを厳守	<input type="checkbox"/> 職場ルールを違反
⑦礼儀等の基本的なマナー	<input type="checkbox"/> 礼儀正しくマナーがよい	<input type="checkbox"/> 無作法でマナーが悪い
⑧場内美化への努力	<input type="checkbox"/> 場内美化に常に努力	<input type="checkbox"/> 場内美化に関心
⑨指示事項の確実な実施	<input type="checkbox"/> 指示の確実な実施に努力	<input type="checkbox"/> 指示への努力が不足
⑩適切な構内歩行	<input type="checkbox"/> ボケツから手を出し右側歩行	<input type="checkbox"/> ボケツに手を入れ歩行

2 職務能力面の評価

能力	優	良	可
①実行力	<input type="checkbox"/> 目標達成に向けて行動する	<input type="checkbox"/> 行動しようと努力	<input type="checkbox"/> やや努力不足
②働きかける力	<input type="checkbox"/> 周囲を動かす力がある	<input type="checkbox"/> 努力している	<input type="checkbox"/> やや努力不足
③課題発見力	<input type="checkbox"/> 現状把握し、課題を明確化する	<input type="checkbox"/> 課題に気づく	<input type="checkbox"/> やや無関心
④課題解決計画力	<input type="checkbox"/> 解決方法を考え、工夫し準備する	<input type="checkbox"/> 計画立案に努力	<input type="checkbox"/> やや努力不足
⑤創造力	<input type="checkbox"/> 新たな発想で解決方法を考える	<input type="checkbox"/> 発想しようと努力	<input type="checkbox"/> やや努力不足
⑥発信力	<input type="checkbox"/> 考えを整理し、適確に伝える	<input type="checkbox"/> 適確な発信に努力	<input type="checkbox"/> やや努力不足
⑦傾聴力	<input type="checkbox"/> 意見を引き出し、丁寧に聴く	<input type="checkbox"/> 意見を丁寧に聴く	<input type="checkbox"/> 丁寧さが不足
⑧柔軟性	<input type="checkbox"/> 意見や立場の違いを理解する	<input type="checkbox"/> 違いの理解に努力	<input type="checkbox"/> やや努力不足
⑨状況把握力	<input type="checkbox"/> 状況把握し自分の役割を自覚する	<input type="checkbox"/> 状況把握に努力	<input type="checkbox"/> 状況把握が不足
⑩ストレスコントロール力	<input type="checkbox"/> ストレスをポジティブ捉えて対応する	<input type="checkbox"/> ストレスを上手にコントロールする	<input type="checkbox"/> ストレスコントロールが下手

参加者学生すべてに記入して
もらおう

3 総括評価 : 優 良 可

4 学生へのアドバイスやお気づきの点がありましたらご記入ください。

企業内実習・評価表

平成 年 月 日

学生氏名		企業名	
実習期間	月 日～ 月 日	監督員氏名	
出欠状況	出席 () 日 遅刻 () 日	欠席 () 日 早退 () 日	

※実習中の学生の態度・能力について、気づかれた点について評価をお願いします。評価しにくい部分は、空欄としてください。

1 意欲・態度面の評価

評価項目	可	不可
①実習時の身だしなみ	<input type="checkbox"/> 職業人としての適切	<input type="checkbox"/> 職業人として不適切
②実習全般の態度・動作	<input type="checkbox"/> まじめ・熱心	<input type="checkbox"/> 不真面目・不熱心
③職場での言葉遣い	<input type="checkbox"/> 目上の人に敬語を使用	<input type="checkbox"/> 敬語が使えない
④実習意欲・積極性・自発性	<input type="checkbox"/> 意欲的・積極的・自発的	<input type="checkbox"/> 無気力・指示待ち
⑤安全に関する適切な行動	<input type="checkbox"/> 安全ルールを厳守	<input type="checkbox"/> 安全ルールに不注意
⑥職場規律の遵守	<input type="checkbox"/> 職場規律・ルールを厳守	<input type="checkbox"/> 職場ルールを違反
⑦礼儀等の基本的なマナー	<input type="checkbox"/> 礼儀正しくマナーがよい	<input type="checkbox"/> 無作法でマナーが悪い
⑧場内美化への努力	<input type="checkbox"/> 場内美化に常に努力	<input type="checkbox"/> 場内美化に無関心
⑨指示事項の確実な実施	<input type="checkbox"/> 指示の確実な実施に努力	<input type="checkbox"/> 指示への努力が不足
⑩適切な構内歩行	<input type="checkbox"/> ポケットから手を出し右側歩行	<input type="checkbox"/> ポケットに手を入れ歩行

2 職務能力面の評価

能力	優	良	可
①実行力	<input type="checkbox"/> 目標達成に向けて行動する	<input type="checkbox"/> 行動しようと努力	<input type="checkbox"/> やや努力不足
②働きかける力	<input type="checkbox"/> 周囲を動かす力がある	<input type="checkbox"/> 努力している	<input type="checkbox"/> やや努力不足
③課題発見力	<input type="checkbox"/> 現状把握し、課題を明確化する	<input type="checkbox"/> 課題に気づく	<input type="checkbox"/> やや無関心
④課題解決計画力	<input type="checkbox"/> 解決方法を考え、工夫し準備する	<input type="checkbox"/> 計画立案に努力	<input type="checkbox"/> やや努力不足
⑤創造力	<input type="checkbox"/> 新たな発想で解決方法を考える	<input type="checkbox"/> 発想しようと努力	<input type="checkbox"/> やや努力不足
⑥発信力	<input type="checkbox"/> 考えを整理し、適確に伝える	<input type="checkbox"/> 適確な発信に努力	<input type="checkbox"/> やや努力不足
⑦傾聴力	<input type="checkbox"/> 意見を引き出し、丁寧に聴く	<input type="checkbox"/> 意見を丁寧に聴く	<input type="checkbox"/> 丁寧さが不足
⑧柔軟性	<input type="checkbox"/> 意見や立場の違いを理解する	<input type="checkbox"/> 違いの理解に努力	<input type="checkbox"/> やや努力不足
⑨状況把握力	<input type="checkbox"/> 状況把握し自分の役割を自覚する	<input type="checkbox"/> 状況把握に努力	<input type="checkbox"/> やや努力不足
⑩ストレスコントロール力	<input type="checkbox"/> ストレスをポジティブ捉えて対応する	<input type="checkbox"/> 何とかストレスに対応	<input type="checkbox"/> ストレス対応が下手

3 総括評価 : 優 良 可

4 学生へのアドバイスやお気づきの点がありましたらご記入ください。

デュアル教育 ルーブリック

学生・企業等参照用	〇〇〇〇事業 デュアル教育 ルーブリック
-----------	-------------------------

		評価尺度(評価基準)			
		4	3	2	1
評価観点(評価指標)	A 実習と授業の関係性	デュアル教育(実習)を通じて専修学校の授業で学んだことの意義を説明できる。	デュアル教育(実習)を通じて専修学校の授業で学んだことの目的が理解できる。	デュアル教育(実習)で自分が経験したいことが明確である。	デュアル教育(実習)で自分が何を経験したいのか目標が漠然としている。
	B 職業の理解・共感	実習先の事業内容(実習先の実務)を理解し、どのような点が共感できるか説明できる。	実習先の事業内容(実習先の実務)を理解し、事業内容に対し共感的な態度が見られる。	実習先の事業内容(実習先の実務)を理解し、積極的に参加できる。	実習先の事業内容(実習先の実務)を理解できる。
	C プロジェクト・マネジメント(目標設定)	与えられた問題を理解し、それを解決するプロジェクトの目標(成果物、コスト、納期など)を設定できる。	企業等の助言を得ながら、プロジェクトの目標(成果物、コスト、納期など)を設定できる。	プロジェクトの目標(成果物、コスト、納期など)を定量的に説明できる。	プロジェクトの目標(成果物、コスト、納期など)を定性的にしか説明できない。
	D 他者との協働	<ul style="list-style-type: none"> ■自分の専門以外の分野に好奇心と深い関心を持ち、その専門と自分の専門との関係、その専門の特徴、その専門でできる事、などを体系的に理解している。 ■これをもとに、その専門の人に今の実務の目標達成のためにしてもらいたいことをまとめ、依頼している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自分の専門以外の分野に深い関心を持ち、積極的に理解しようとした。 ■その専門の人との話し合いで、実務の目標達成のための仕事の分担を決めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自分の専門以外の分野に関心を持っている。 ■その専門の人と実務の目標達成のために、どのように協働すればよいかについて話し合った。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自分の専門以外の分野に関心を持たず、理解しようとしなかった。 ■他分野の人と実務の目標達成の為にどのように協働すればよいかわからない。
	E ●●●●●	XXXXXXがうまくできる。	XXXXXXができる。	XXXXXXがわかる。	XXXXXXがわからない。

【構成】

- **左列:** 評価指標(デュアル教育の教育目標として挙げた知識・スキルの項目)
- **上行:** 評価指標に即した評価基準(知識・スキルの習得度を表すレベル)
- **各セル:** それぞれの評価指標ごとにどの程度達成できればどのくらいの評点を与えるかのパフォーマンス(行動や内容)の特徴が記述される。

【導入効果】

- デュアル教育において学生への教育付加価値(「〇〇できる」「〇〇がわかる」)が何かを具体的に定義することにつながる。
- 専修学校教職員、企業担当者、学生がデュアル教育における教育目標を共有可能。

柔道整復師 臨床(地)実習で役立つ

ループリック

活用の手引き

本手引書について

柔道整復師学校養成施設指定規則の一部を改正する省令（平成29年3月31日公布）により、総単位数が85単位から99単位以上に増加、臨床実習も1単位から4単位へと拡充されました。また、臨床実習施設に関してもその範囲が拡大されました。

本手引書は、実習の見直しを図る際に学校教員が参照することを想定し、ルーブリック（学習到達度表）およびその使い方を示すことで、各校の教員の皆様が実習の質をより高めるきっかけとなることを目指し作成されました。ルーブリックという言葉には聞き馴染みがないかもしれませんが、本手引書を手がかりにルーブリックを活用し、各校の学生さんの実習がより実りあるものとなりますことを切に願います。

なお、本手引書は『柔道整復師 臨床（地）実習ガイドライン』に準拠しており、ガイドラインと合わせて参照されることをおすすめします。

ルーブリック（学習到達度表）とは

ルーブリックとは、学生の学習到達度を測定するための要素を、「①項目として分解し」、「②各項目についてその水準を定めた」ものです。（下図参照）

①項目

柔道整復師として仕事をする上で必要と考えられる事項や実習の際に身に着けることが望まれると考えられる項目を縦に列挙しています。例えば、施術者の態度は非常に重要な要素の1つとなるでしょう。この態度という大項目をさらにいくつかの小項目（身だしなみ～守秘義務・個人情報）に分解して記載しています。

②水準

各項目の達成度をA～Dの4段階に分け、各段階がどの程度の水準を表すのかを横に記載しています。Aは当該項目において望ましい水準に到達していることを示し、B, C, Dと順に到達水準が低くなっていきます。例えば、「身だしなみ」について、A「施術者に相応しい身だしなみ（服装・容姿）ができる」からD「相応しい身だしなみができないことが多い」までの4段階で示しています。

		水準			
大項目	小項目	評価 A	評価 B	評価 C	評価 D
態度	身だしなみ（服装・容姿）	施術者に相応しい身だしなみができる	相応しい身だしなみが概ねできる	・・・	・・・
	挨拶、言葉遣い	施術者に相応しい挨拶と言葉遣いができる	相応しい挨拶と言葉遣いが概ねできる	・・・	・・・
	時間、約束事	時間や約束事を守ることができる	時間や約束事を概ね守ることができる	・・・	・・・
	実行力	臨床実習指導者の指示に適切に対応することができる	臨床実習指導者の指示に概ね対応することができる	・・・	・・・
	コミュニケーション	実習先のスタッフと良好なコミュニケーションを築くことができる	コミュニケーションが概ねできる	・・・	・・・
	積極性	実習に際して目的意識を持って臨むことができる	目的意識を持って臨むことが概ねできる	・・・	・・・
	態度	患者に好印象の態度がとれる	患者に不快感を与えない態度がとれる	・・・	・・・
付帯業務	守秘義務・個人情報	守秘義務・個人情報を厳守している	守秘義務・個人情報に注意を払っている	・・・	・・・
	清潔保持	施術室や待合室などの清潔保持ができる	施術室や待合室などの清潔保持が概ねできる	・・・	・・・
	衛生管理	施術道具及び施術機器の衛生管理ができる	施術道具及び施術機器の衛生管理に努めることができる	・・・	・・・
	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・

※ 具体的なルーブリック表は4-5pに記載しています。もちろん、本書記載のルーブリックをそのまま使用する必要はなく、適宜項目・水準を追加したり、その他の事項を記入する列を追加して活用してください。

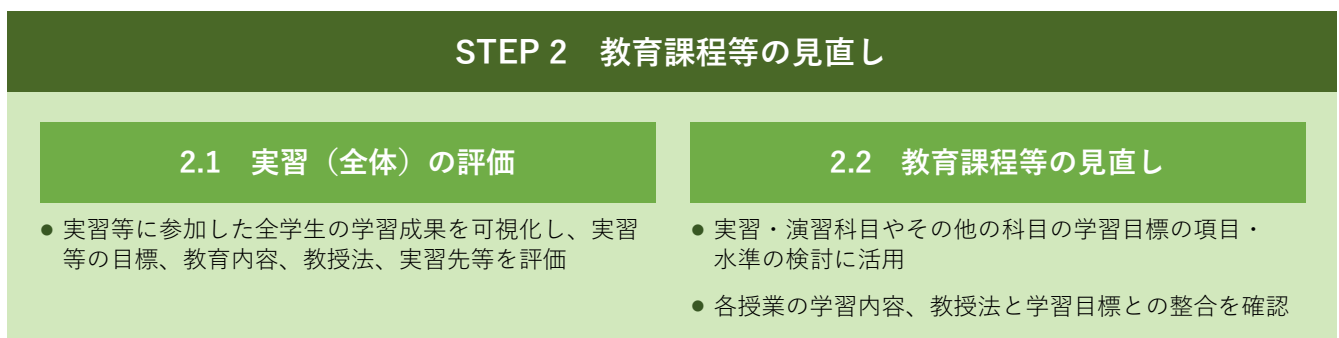
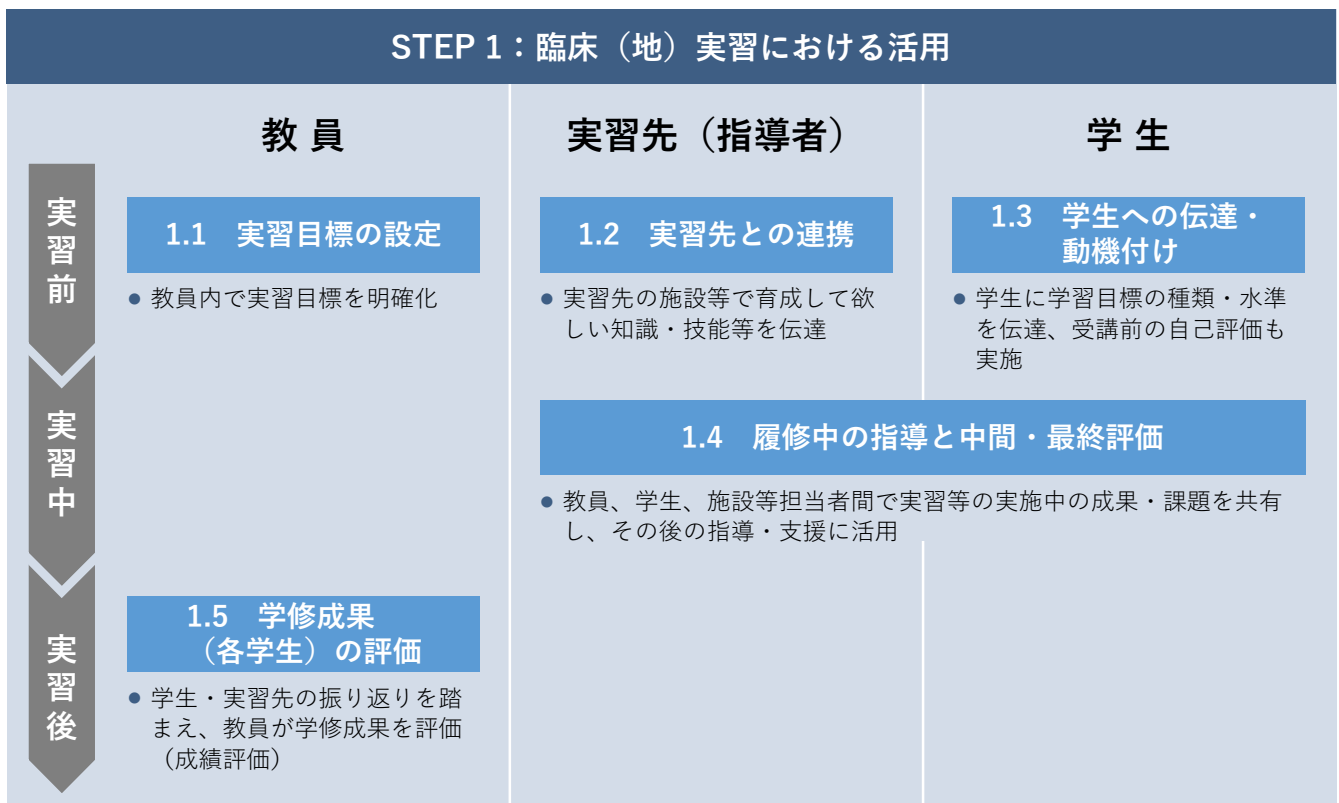
ルーブリックの活用機会

ルーブリックは成績評価に留まらず、非常に多くの活用機会が想定されます。本手引書では特に活用が想定される臨床（地）実習における活用機会をSTEP1として示します。

STEP1では、直接的にルーブリックを使用する主体を、教員・実習先（指導者）・学生の3者に分け、5つの活用場面を示します。

そのうえで、ルーブリックを用いた実習により、カリキュラム構成等へのフィードバックを得て、教育課程等の見直しを行う等の活用方法をSTEP2として示します。STEP2では2つの活用機会を示します。

もちろん、本書は活用の可能性について提示したものにすぎません。可能な部分を取り入れ、方法も学校の実態に合わせて柔軟に変更し、ご利用ください。



柔道整復師ルーブリック

本ルーブリックにおいて、評価Aとは「施術所で業務を行っている治療者とほぼ同じ」、評価Bとは「学生として優れている」、評価Cとは「学生として容認できる」、評価Dとは「学生として不可」の各水準を指すものとして記載している。

大項目	小項目	評価 A	評価 B
態度	身だしなみ（服装・容姿）	施術者に相応しい身だしなみができる	相応しい身だしなみが概ねできる
	挨拶、言葉遣い	施術者に相応しい挨拶と言葉遣いができる	相応しい挨拶と言葉遣いが概ねできる
	時間、約束事	時間や約束事を守ることができる	時間や約束事を概ね守ることができる
	実行力	臨床実習指導者の指示に適切に応えることができる	臨床実習指導者の指示に概ね応えることができる
	コミュニケーション	実習先のスタッフと良好なコミュニケーションを築くことができる	コミュニケーションが概ねできる
	積極性	実習に際して目的意識を持って臨むことができる	目的意識を持って臨むことが概ねできる
	態度	患者に好印象の態度がとれる	患者に不快感を与えない態度がとれる
付帯業務	守秘義務・個人情報	守秘義務・個人情報を厳守している	守秘義務・個人情報に注意を払っている
	清潔保持	施術室や待合室などの清潔保持ができる	施術室や待合室などの清潔保持が概ねできる
	衛生管理	施術道具及び施術機器の衛生管理ができる	施術道具及び施術機器の衛生管理に努めることができる
診察	受付	指導・監視の下で受付業務全般ができる	指導・監視の下で受付業務全般が概ねできる
	手順の説明	医療面接（問診）と身体診察（触診など）の手順を説明できる	医療面接（問診）と身体診察（触診など）の手順を概ね説明できる
	医療面接	医療面接（問診）ができる	医療面接（問診）が概ねできる
	身体診察	身体診察（触診など）ができる	身体診察（触診など）が概ねできる
	計測、評価の説明	ROM、MMTなどの計測、評価を説明できる	ROM、MMTなどの計測、評価を概ね説明できる
	計測、評価	ROM、MMTなどの計測、評価ができる	ROM、MMTなどの計測、評価が概ねできる
	その他検査の評価説明	各種徒手検査、各反射検査などの評価を説明できる	各種徒手検査、各反射検査などの評価を概ね説明できる
物理療法	その他検査の評価	各種徒手検査、各反射検査などで評価ができる	各種徒手検査、各反射検査などで評価が概ねできる
	効果・適応・禁忌の説明	物理療法機器の効果と適応と禁忌を説明できる	物理療法機器の効果と適応と禁忌を概ね説明できる
施術の介助	機器の装着	正しく物理療法機器を患者に装着できる	概ね正しく物理療法機器を患者に装着できる
	介助	患者誘導が安全にできる 臨床実習指導者のもと患部を愛護的に扱うことができる	患者誘導が概ねできる 臨床実習指導者のもと患部を愛護的に扱うことが概ねできる
	施術録の説明	施術録の項目を説明できる	施術録の項目を概ね説明できる
固定	施術録	臨床実習指導者が行う診察に参加し、臨床実習指導者が記載する施術録と同水準の記載ができる	臨床実習指導者が行う診察に参加し、施術録の記載が概ねできる
	巻軸包帯法の説明	巻軸包帯での被覆包帯が緩まない包帯・腫脹の変化に対応できる包帯の技術取得・固定包帯は骨折等の整復位をいかに保持するかを説明できる	巻軸包帯での被覆包帯が緩まない包帯・腫脹の変化に対応できる包帯の技術取得・固定包帯は骨折等の整復位をいかに保持するかを概ね説明できる
	巻軸包帯	巻軸包帯での被覆包帯が緩まない包帯・腫脹の変化に対応できる包帯の技術取得・固定包帯は骨折等の整復位をいかに保持するかを修得している	巻軸包帯での被覆包帯が緩まない包帯・腫脹の変化に対応できる包帯の技術取得・固定包帯は骨折等の整復位をいかに保持するかを概ね修得している
	テーピングの説明	患部の運動制限・疼痛緩和・血行障害の予防などの技術を説明できる	患部の運動制限・疼痛緩和・血行障害の予防などの技術を概ね説明できる
その他の専門技術	テーピング	患部の運動制限・疼痛緩和・血行障害の予防などの技術を修得している	患部の運動制限・疼痛緩和・血行障害の予防などの技術を概ね修得している
	柔道整復術の説明	骨折の整復技術・脱臼の整復技術・軟部組織損傷の初期措置法などの技術を説明できる	骨折の整復技術・脱臼の整復技術・軟部組織損傷の初期措置法などの技術を概ね説明できる
	柔道整復術	骨折の整復技術・脱臼の整復技術・軟部組織損傷の初期措置法などの技術を修得している	骨折の整復技術・脱臼の整復技術・軟部組織損傷の初期措置法などの技術を概ね修得している
	後療法の説明	以下の技術を説明できる ・手技療法：軽擦法・強擦法・叩打法などを用いて自然治癒力を活性化させ損傷の早期回復を図る技術の習得 ・運動療法：全身運動療法と局所運動療法を併用し機能回復と増進を図る技術の習得 ・物理療法：電気・光・温熱・冷却・音波などの物理的エネルギーを使用して、生体機能の正常化および恒常性維持機能を高める研究および技術の習得	以下の技術を概ね説明できる ・手技療法：軽擦法・強擦法・叩打法などを用いて自然治癒力を活性化させ損傷の早期回復を図る技術の習得 ・運動療法：全身運動療法と局所運動療法を併用し機能回復と増進を図る技術の習得 ・物理療法：電気・光・温熱・冷却・音波などの物理的エネルギーを使用して、生体機能の正常化および恒常性維持機能を高める研究および技術の習得
	後療法	以下の技術を修得している ・手技療法：軽擦法・強擦法・叩打法などを用いて自然治癒力を活性化させ損傷の早期回復を図る技術の習得 ・運動療法：全身運動療法と局所運動療法を併用し機能回復と増進を図る技術の習得 ・物理療法：電気・光・温熱・冷却・音波などの物理的エネルギーを使用して、生体機能の正常化および恒常性維持機能を高める研究および技術の習得	以下の技術を概ね修得している ・手技療法：軽擦法・強擦法・叩打法などを用いて自然治癒力を活性化させ損傷の早期回復を図る技術の習得 ・運動療法：全身運動療法と局所運動療法を併用し機能回復と増進を図る技術の習得 ・物理療法：電気・光・温熱・冷却・音波などの物理的エネルギーを使用して、生体機能の正常化および恒常性維持機能を高める研究および技術の習得
	鑑別技術の説明	外見上の症状では判断できない症状を各種検査法で鑑別する技術の習得。臨床実習にて治療方針を決め、治療し、評価する技術を説明できる	外見上の症状では判断できない症状を各種検査法で鑑別する技術の習得。臨床実習にて治療方針を決め、治療し、評価する技術を概ね説明できる
	鑑別技術	外見上の症状では判断できない症状を各種検査法で鑑別する技術の習得。臨床実習にて治療方針を決め、治療し、評価する技術を修得している	外見上の症状では判断できない症状を各種検査法で鑑別する技術の習得。臨床実習にて治療方針を決め、治療し、評価する技術を概ね修得している
医療面接の説明	信頼関係の構築の仕方、主訴、現病歴の確認などの技術を説明できる	信頼関係の構築の仕方、主訴、現病歴の確認などの技術を概ね説明できる	
医療面接	信頼関係の構築の仕方、主訴、現病歴の確認などの技術を修得している	信頼関係の構築の仕方、主訴、現病歴の確認などの技術を概ね修得している	
リスク管理の説明	フォルクマン拘縮などの後遺症へのリスク管理、整備・固定・後療法・自己管理などに対する指導管理について説明できる	フォルクマン拘縮などの後遺症へのリスク管理、整備・固定・後療法・自己管理などに対する指導管理について概ね説明できる	
リスク管理	フォルクマン拘縮などの後遺症へのリスク管理、整備・固定・後療法・自己管理などに対する指導管理の技術を修得している	フォルクマン拘縮などの後遺症へのリスク管理、整備・固定・後療法・自己管理などに対する指導管理の技術を概ね修得している	
総括	自己認識、動機づけ	将来の自分の目標に対し、何が足りないかを具体的に述べる ことができる	将来の自分の目標に対し、何が足りないかを述べる ことができる

本ルーブリックは、柔道整復師の実習における最低限の項目を想定して作成しております。項目や評価の水準は各校にて追加・修正いただき活用いただければ幸いです。

評価 C	評価 D
相応しい身だしなみとして不適切なことがある	相応しい身だしなみができないことが多い
挨拶と言葉遣いに不適切なことがある	相応しい挨拶と言葉遣いができないことが多い
時間や約束事を守らないことがある	時間や約束事を守ることができないことが多い
臨床実習指導者の指示に応えないことがある	臨床実習指導者の指示に応えないことが多い
コミュニケーションの意識に欠けることがある	コミュニケーションができないことが多い
目的意識を持って臨むには不十分なところがある	目的意識を持って臨むことができないことが多い
患者に不適切な態度をとることがある	患者に不適切な態度をとることが多い
守秘義務・個人情報の意識に欠けることがある	守秘義務・個人情報を認識できていないことが多い
施術室や待合室などの清潔保持に不十分なところがある	施術室や待合室などの清潔保持をしないことが多い
施術道具及び施術機器の衛生管理に不十分なところがある	施術道具及び施術機器の衛生管理に努めないことが多い
指導・監督の下で受付業務の一部ができる（例：予診表の説明）	指導・監督の下でも見学しかできない
医療面接（問診）と身体診察（触診など）の手順の説明に不十分なところがある	医療面接（問診）と身体診察（触診など）の手順が説明できないことが多い
医療面接（問診）に不十分なところがある	医療面接（問診）ができないことが多い
身体診察（触診など）に不十分なところがある	身体診察（触診など）ができないことが多い
ROM、MMTなどの計測、評価の説明に不十分なところがある	ROM、MMTなどの計測、評価の説明ができない
ROM、MMTなどの計測、評価に不十分なところがある	ROM、MMTなどの計測、評価ができないことが多い
各種徒手検査、各反射検査などの評価の説明に不十分なところがある	各種徒手検査、各反射検査などの評価の説明ができないことが多い
各種徒手検査、各反射検査などで評価に不十分なところがある	各種徒手検査、各反射検査などの評価ができないことが多い
物理療法機器の効果と適応と禁忌の説明に不十分なところがある	物理療法機器の効果と適応と禁忌の説明できないことが多い
物理療法機器の患者への装着に不十分なところがある	物理療法機器を患者に装着できないことが多い
患者誘導に不十分なところがある	患者誘導ができないことが多い
臨床実習指導者のもと患部を愛護的に扱うことに不十分なところがある	臨床実習指導者のもと患部を愛護的に扱うことができないことが多い
施術録の項目の説明に不十分なところがある	施術録の項目を説明できないことが多い
臨床実習指導者が行う診察に参加し、施術録を記載に不十分なところがある	臨床実習指導者が行う診察に参加し、施術録を記載できないことが多い
巻軸包帯での被覆包帯が緩まない包帯・腫脹の変化に対応できる包帯の技術取得・固定包帯は骨折等の整復位をいかに保持するか説明に不十分なところがある	巻軸包帯での被覆包帯が緩まない包帯・腫脹の変化に対応できる包帯の技術取得・固定包帯は骨折等の整復位をいかに保持するかを説明できないことが多い
巻軸包帯での被覆包帯が緩まない包帯・腫脹の変化に対応できる包帯の技術取得・固定包帯は骨折等の整復位をいかに保持するか技術の修得に不十分なところがある	巻軸包帯での被覆包帯が緩まない包帯・腫脹の変化に対応できる包帯の技術取得・固定包帯は骨折等の整復位をいかに保持するか技術を修得できていないことが多い
患部の運動制限・疼痛緩和・血行障害の予防などの技術の説明に不十分なところがある	患部の運動制限・疼痛緩和・血行障害の予防などの技術の説明できないことが多い
患部の運動制限・疼痛緩和・血行障害の予防などの技術の修得に不十分なところがある	患部の運動制限・疼痛緩和・血行障害の予防などの技術を修得できていないところが多い
骨折の整復技術・脱臼の整復技術・軟部組織損傷の初期措置法などの技術の説明に不十分なところがある	骨折の整復技術・脱臼の整復技術・軟部組織損傷の初期措置法などの技術を説明できないところが多い
骨折の整復技術・脱臼の整復技術・軟部組織損傷の初期措置法などの技術の修得に不十分なところがある	骨折の整復技術・脱臼の整復技術・軟部組織損傷の初期措置法などの技術を修得できていないところが多い
以下の技術の説明に不十分なところがある ・手技療法：軽擦法・強擦法・叩打法などを用いて自然治癒力を活性化させ損傷の早期回復を図る技術の習得 ・運動療法：全身運動療法と局所運動療法を併用し機能回復と増進を図る技術の習得 ・物理療法：電気・光・温熱・冷却・音波などの物理的エネルギーを使用して、生体機能の正常化および恒常性維持機能を高める研究および技術の習得	以下の技術を説明できないところが多い ・手技療法：軽擦法・強擦法・叩打法などを用いて自然治癒力を活性化させ損傷の早期回復を図る技術の習得 ・運動療法：全身運動療法と局所運動療法を併用し機能回復と増進を図る技術の習得 ・物理療法：電気・光・温熱・冷却・音波などの物理的エネルギーを使用して、生体機能の正常化および恒常性維持機能を高める研究および技術の習得
以下の技術の習得に不十分なところがある ・手技療法：軽擦法・強擦法・叩打法などを用いて自然治癒力を活性化させ損傷の早期回復を図る技術の習得 ・運動療法：全身運動療法と局所運動療法を併用し機能回復と増進を図る技術の習得 ・物理療法：電気・光・温熱・冷却・音波などの物理的エネルギーを使用して、生体機能の正常化および恒常性維持機能を高める研究および技術の習得	以下の技術を習得できていないところが多い ・手技療法：軽擦法・強擦法・叩打法などを用いて自然治癒力を活性化させ損傷の早期回復を図る技術の習得 ・運動療法：全身運動療法と局所運動療法を併用し機能回復と増進を図る技術の習得 ・物理療法：電気・光・温熱・冷却・音波などの物理的エネルギーを使用して、生体機能の正常化および恒常性維持機能を高める研究および技術の習得
外見上の症状では判断できない症状を各種検査法で鑑別する技術の習得。臨床実習にて治療方針を決め、治療し、評価する技術の説明に不十分なところがある	外見上の症状では判断できない症状を各種検査法で鑑別する技術の習得。臨床実習にて治療方針を決め、治療し、評価する技術を説明できないところが多い
外見上の症状では判断できない症状を各種検査法で鑑別する技術の習得。臨床実習にて治療方針を決め、治療し、評価する技術の習得に不十分なところがある	外見上の症状では判断できない症状を各種検査法で鑑別する技術の習得。臨床実習にて治療方針を決め、治療し、評価する技術を習得できていないところが多い
信頼関係の構築の仕方、主訴、現病歴の確認などの技術の説明に不十分なところがある	信頼関係の構築の仕方、主訴、現病歴の確認などの技術を説明できないところが多い
信頼関係の構築の仕方、主訴、現病歴の確認などの技術の習得に不十分なところがある	信頼関係の構築の仕方、主訴、現病歴の確認などの技術を習得できていないところが多い
フォルクマン拘縮などの後遺症へのリスク管理、整備・固定・後療法・自己管理などに対する指導管理についての説明に不十分なところがある	フォルクマン拘縮などの後遺症へのリスク管理、整備・固定・後療法・自己管理などに対する指導管理について説明できないところが多い
フォルクマン拘縮などの後遺症へのリスク管理、整備・固定・後療法・自己管理などに対する指導管理の技術の習得に不十分なところがある	フォルクマン拘縮などの後遺症へのリスク管理、整備・固定・後療法・自己管理などに対する指導管理の技術を習得できていないところが多い
将来の自分の目標に対し、何が足りないかの気づきが曖昧である	将来の自分の目標に対し、何が足りないかを気づいていない

STEP 1 臨床（地）実習における活用

活用目的

STEP 1 では、臨床実習におけるルーブリックの活用方法を示します。ルーブリックを用いることで、臨床実習の目標設定、教員・学生・指導者間の目標共有、評価、学生へのフィードバックや内省の支援など、実習の各段階での実習成果の質的向上に活用いただくことを想定しています。

ルーブリックの直接的な使用者は教員・実習先（指導者）・学生の三者が考えられます。それぞれの主体の使用を想定しながらお読みください。

全体の流れとしては、実習の順序に沿って記述しています。1.1では教員内での実習目標の設定、1.2では実習先における実習内容の検討、1.3では実習における学生の目標設定、1.4では実習先と学生による中間・最終評価、1.5では学生の成績評価を扱います。

活用方法1.1 実習目標の設定

はじめに、実習においてどのような項目をどの水準まで到達させることを目指すのか、教員内で検討しておく必要があります。

評価項目の検討

実習時までの授業の進み具合等から、実習において重点的に実施すべき項目を、個別のルーブリック項目から洗い出しましょう。その際、各小項目へ○や×をつけるとよいでしょう（例えば、授業進捗上ROMやMMTは未学習のため△、テーピングは学習済みのため○等）。

目標評価水準の検討

続いて各項目に対して目標とする評価水準を検討しましょう。例えば、日頃からあまり「身だしなみ」に気を配っていない様子が見受けられる場合は、評価Bを目標にするなど、学生の状況に合わせて目標水準をすり合わせましょう。

項目と水準の検討とすり合わせを通じて、学校としての実習目標の標準化や成績評価の公平性がより担保されるようになると考えられます。

大項目	小項目	実習希望項目	評価 A	評価 B	評価 C	評価 D
態度	身だしなみ	○	施術者に相応しい身だしなみ（服装・容姿）ができる
	...	×	...			
診察	計測、評価の説明	△	ROM、MMTなどの計測、評価を説明できる	ROM、MMTなどの計測、評価を概ね説明できる	ROM、MMTなどの計測、評価の説明に不十分なことがある。	
	計測、評価	×	ROM、MMTなどの計測、評価ができる			
...			
固定			
	テーピング		患部の運動制限・疼痛緩和・血行障害の予防などの技術を修得している			

POINT 教員内における「実習に求める項目と水準」の見える化

ルーブリックを活用しても、教員内でまったく同じ水準を確保することはできませんし、そこにこだわりすぎることはかえって、学習の柔軟性を下げるでしょう。ポイントは、ルーブリックの使用により「実習に何を求めるのか」について教員内における議論を行えることです。

本手引書のルーブリックを題材に、「この項目は必要だろう」「評価Bでこの水準は難しい」などの議論を行うことで、教員内で暗黙知化されていた基準を明らかにすることができます。

活用方法1.2 実習先との連携

教育目的に適った臨床実習を行うため、実習生を受け入れる実習先と、実習の目的をきちんと共有しておく必要があります。学校側と実習先の意思疎通を十分行うことで、受け入れを断られる、実習内容が学校の意図したものと大きく乖離する、実習先によって実習内容が異なってしまうという事態を回避できるようになります。本項では実習先との連携におけるルーブリックの利用法として、(1) 実習の依頼・実習内容の確認、(2) 学生と実習先とのマッチングの2つを示します。

(1) 実習依頼・実習内容の確認

実習先が決まった後は、実習内容を検討し、目的に適った実習指導が行われるよう環境整備を行う必要があります。その際のポイントは、学校側が何を求めているのかを実習先へきちんと伝え、実習先が何ができるのかを十分に把握することです。ルーブリックを用いて、両者のすり合わせを図りましょう。この際にも「①項目と②水準」の2つがポイントとなります。

まず、以下のように、P6で示した学校側から実習で実施を希望する項目を伝えましょう（この際、実習科目のシラバスや大まかなカリキュラムを渡すことも効果的でしょう）。もちろん、学校側で希望する項目のすべてを実習先で対応できないことも往々にしてあります。そこで、ルーブリックを用いて実習先にも実施が可能な項目に○をつけてもらいましょう。両者を元に、実習の項目をすり合わせましょう。

さらに、実習の際にどの程度の指導水準が必要なのかはしばしば課題となります。この段階では、ひとまず平均的な水準として各項目でどの程度の水準の指導を意図しているのか、実習先へ伝えましょう。

また、実習実施項目や、その水準に関する議論の中で、具体的にどのような活動を学生に従事・体験させることができるのか実習先と相談し明確化しましょう。

大項目	小項目	実習希望項目	実習先実施可能生	評価 A	評価 B	評価 C	評価 D
態度	身だしなみ	○	○	施術者に相応しい身だしなみができる
			
診察	計測、評価の説明	△	○	ROM、MMTなどの計測、評価を説明できる	ROM、MMTなどの計測、評価を概ね説明できる	ROM、MMTなどの計測、評価の説明に不十分なことがある。	
	計測、評価	×	○	ROM、MMTなどの計測、評価ができる			
...			
固定			
	テーピング	○	×	患部の運動制限・疼痛緩和・血行障害の予防などの技術を修得している			

例えば、上記の例をみてみましょう。「みだしなみ」項目は実習において実施可能でしょう。一方で、「計測、評価」の項目は、授業進捗等の都合から、「テーピング」は受け入れ先の都合から、この実習先では行えないことが事前にわかります。さらに、「計測、評価の説明」のように授業の進捗状況等で不十分なところがある場合、目標評価レベルを下げて実施することもできます。

どのような形で指導いただきたいのか、具体的に伝え、実習での実施内容を具体的に検討しましょう。例えば、ルーブリックに列を追加して、想定実施内容を記載しても良いでしょう。

POINT 指導者研修の活用・説明会の開催

実習先と実習の内容をすり合わせる時間を確保することは、教員にとっても実習先にとっても大変です。そこで、指導者研修を活用しましょう。指導者研修の機会に、学校と実習先指導者との間でルーブリックの説明、指導内容の検討を行ったり、指導内容の共有を行うことでノウハウの共有をしましょう。

実習先との連絡を、教員が実習先ごとに行うのは大きな労力が必要となります。指導者研修で行えない場合には、実習先指導者を集めて一度に説明会を行うことも効果的でしょう。教員側の調整に要する労力を実習内容の検討に振り向け、実習の質をより高めていくことが可能になります。

(2) 学生と実習先のマッチング



実習先で指導可能な項目を一覧化することで、学生ごとの実習目標に合致した指導項目を持つ実習先を選定、学生と実習先のマッチング精度を向上させることができます。

(1) で得た「各実習先実施可能性」の欄を、すべて一覧表にすることで、どの実習先でどの実習項目が実施可能かを把握することができます。学生が希望する、あるいは、教員の立場から学生に必要なと考えられる実習内容を実施可能な実習先を優先的な候補として、学生と実習先のマッチングを行いましょう。

大項目	小項目	実習先1	実習先2	...
態度	身だしなみ	○	○	...
	...	×	○	...
診察	計測、評価の説明	○	×	...
...	...	×	×	...

活用方法1.3 学生への伝達・動機付け

教員内ですり合わせた項目と水準について学生に伝えた上で、ルーブリックの各項目について学生の現状把握（自己評価）を行いましょ。実際にルーブリックを学生へ配布して、自己評価で該当する水準に丸をつけさせ、現状把握を促します。

大項目	小項目	実習希望項目	評価 A	評価 B	評価 C	評価 D
態度	身だしなみ	○	施術者に相応しい身だしなみができる			...
	...	×	...			
診察	計測、評価の説明	△	ROM、MMTなどの計測、評価を説明できる			
...

自己評価や実習先で実習可能な項目を参考に、学生ごとの重点目標項目と水準を記入しましょう。まずは、現状よりも1段階上の評価を目安に目標水準として設定することが望まれます。ここで立てた目標を実習調整者から実習先へ早めに伝え、実習内容の水準の検討とが結びつくようにしましょう。

1. 臨床実習での目標

1. 態度「みだしなみ」項目では評価A「施術者に相応しい身だしなみができる」を目標とする。特に頭髪や爪などに気を配る。
2. 診察「計測・評価の説明」項目では、評価B「ROM、MMTなどの計測、評価を概ね説明できる」を目標とする。授業で学習してから時間が経っているため、教科書等を再確認して実習に挑みたい。
3. …

参考様式 柔道整復師臨床（地）実習ガイドライン 様式15：個別の学習目標設定

活用方法1.4 実習中の指導と中間・最終評価

実習中間評価および実習後の、学生及び指導者による評価の際にルーブリックを参照しましょう。ABCDの評価が具体的にどの水準に該当するのか、ルーブリックの記述を参照して評価を行うことができます。

中間評価の際には、目標に対して達成できていない項目や、自己評価と指導者評価でずれのある項目を洗い出し、その理由を具体的な場면을例に挙げながら振り返りましょう。また、後半の実習で達成できていない目標を達成できるように指導者と相談しましょう。

一般目標	行動目標	行動目標評価	一般目標評価
態度	<input type="checkbox"/> 施術者に相応しい身だしなみ（服装・容姿）ができる。	A・B ● C・D・UC	A・B ● C・D・UC
	<input type="checkbox"/> 施術者に相応しい挨拶と言葉遣いができる。	A・B ● C・D・UC	
	<input type="checkbox"/> 時間や約束事を守ることができる。	A ● B・C・D・UC	
	<input type="checkbox"/> 臨床実習指導者の指示に適切に応えることができる。	A・B・C ● D・UC	
	<input type="checkbox"/> 実習先のスタッフと良好なコミュニケーションを築くことができる。	● A・B・C・D・UC	

参考様式 柔道整復師臨床（地）実習ガイドライン
 様式13：中間評価（臨床実習指導者用）、様式14：最終評価（臨床実習指導者用）
 様式17：中間評価（自己評価、実習生用）、様式18：最終評価（自己評価、実習生用）

活用方法1.5 学修成果（各学生）の評価

上記の評価はさらに、授業評価にも活用可能です。実習中の学生の状況は教員側では把握しづらいことも多いでしょう。予め指導者側へ基準を示しておくことで、指導者による最終評価を授業評価の判断材料として活用することができます。

また、評価表を紙面でもらうのみではなく、評価表を基に指導者と教員で協議を行い、なぜ評価が高いのか（低いのか）、具体的なエピソードを含め学生の状況を教員と実習先の間で共有し、その後の学校での教育に活かしましょう。

STEP 2 教育課程等の見直し

活用目的

各回の臨床実習実施のみではなく、臨床実習の学修効果の検証や教育課程の見直しにもルーブリックを活用できます。

臨床実習をより効果的に実施していくために、過年度の実習と今年度の実習がそれぞれの程度効果があったのか評価し、実習の改善に役立てることができます。

また、実習先で何を学ぶのかを明確化することで、学校で何をどのタイミングで教育しておくべきかを検討することができます。こうしたプロセスを繰り返すことで、実習前後の学校におけるカリキュラム編成、教育課程全般の時間数の見直しやシラバスの見直しの題材とすることも可能です。

活用方法2.1 実習（全体）の評価

ルーブリックを用いて臨床実習全体が、学生に対してどの程度の学修効果を上げることができたのかを測定することができます。ここでは、(1) 実習前後のスコア算出方法について説明した上で、(2) スコアの活用方法について説明します。

(1) 実習前後のスコア算出

実習を行う前に、ルーブリックを用いて学生の自己評価により学生の現状を把握します（教員による評価を用いることもできます）。この自己評価を用い、Aを4点、Dを1点として各項目について、クラス全体の平均点を算出します。例えば、「みだしなみ」の項目について、Bの学生が10人、Cの学生が5人、Dの学生が5人であればそのクラスの「みだしなみ」の項目は

$$\frac{3 \times 10 + 2 \times 5 + 1 \times 5}{20} = 2.25$$

となります。

同じく、実習後に各項目について学生の現状を自己評価し、クラス全体のスコアを計算します。

大項目	小項目	実習前	実習後
態度	身だしなみ	2.25	3.25

診察	計測、評価の説明	1.5	1.6
...

(2) スコアの活用方法

ここでは2つの活用方法を示します。

第1に実習評価への利用です。実習前後のスコアの差分は学修効果と考えられます。例えば、上の例では「みだしなみ」について、実習前の2.25から実習後の3.25で1.0ポイント上昇しています。この1.0ポイントが実習によって上昇したことになります。昨年度と今年度でどちらの実習形式がよいのか検討する際等に、このスコアを一つの指標として活用できます。

第2に、各実習先の評価を行うことができます。学生のスコア上昇率を実習先別に集計することで、各実習先の指導がどの程度うまくいっているのか、各実習先はどの項目の指導が得意なのかがわかります。実習先の特徴を数値で蓄積することにより、次年度の学生と実習先とのマッチングもより良いものになるでしょう。

活用方法2.2 教育課程等の見直し

ルーブリックを用いて、実習と授業との結びつきを検討し、より適切な教育課程や授業内容を計画することができます。

ルーブリックの最終評価を蓄積することで、学生全体が平均的にどの項目が苦手なのか、どの水準でつまづくのかがわかるようになります。この情報を基に、苦手なポイントを（1）授業の中でフォローすることができます。

さらに、ルーブリックを通して実習で学ぶことが明確化されることで、（2）学習タイミングの見直しを行うこともできます。

(1) 授業内でのフォロー

例年の実習から、学生がつまづくポイントが特定できていれば、実習前につまづくポイントを重点的に学習しておくことができます。あるいは、実習内につまづいたポイントについて実習後に補強的に学ぶことができます。

具体的には、実習で多くの学生がつまづきやすい（つまづいた）ポイントについて、授業内の場で詳細かつ繰り返し説明するなど、実習前に重点的な知識の定着を促すなどの対応が考えられます。例えば、実習の中で「計測、評価の説明」のスコアが低かったようであれば（P10参照）、「計測、評価の説明」について座学の中で取り扱うことで、実習の実体験も含めてより学習内容がより深まるでしょう。

事前学習

実習中につまづきやすいポイントや、実習で行う内容を事前に学んでおく。

実習

事後学習

実習でつまづいたポイント、苦手意識の強かった部分について授業内でフォローアップする。

さらに、下記のように実習で行う内容と授業のカリキュラムの関連表を作っておくと良いでしょう。学生に下記の表を配布して、これまで学んだ過去の授業を振り返ったり、苦手意識のある項目がどの科目で取り扱われるのかがわかることで、意欲的に授業に取り組むことができるでしょう。

大項目	小項目	対応カリキュラム	受講年次
態度	身だしなみ	柔道整復総論Ⅰ	1年
	
診察	計測、評価の説明	柔道整復実技Ⅱ	1年
...	

(2) 学習タイミングの見直し

実習の項目や、実習結果から、学習のタイミングや教育課程を再検討することも可能です。すでに資格取得のために授業の順序や時期は十分に検討されたものとなっていると考えられますが、臨床実習という観点から、改めて学習のタイミングや教育課程の見直しを行うことで、より学生の学びの質を向上させることができる可能性があります。

例えば、実習の前に学んでおくことで、実習内で扱える内容が増える、事前に現場を見ておくことで学校での学習に現実味を持つことができる等の効果が考えられます。

柔道整復師で役立つ
ループリックの使い方

企業内実習・事後アンケート（学生）

企業内実習について、次の質問にお答えください。このアンケートは、次年度以降の企業内実習充実のため参考にさせていただきたく実施するものです。

年 月 日記入

1 あなたにこつてお伺いします。

学 校	
学部・学科	
学 年)

2 企業内実習参加動機を教えてください。（最も当てはまるものを一つだけ選んで、下枠に番号を記入してください。）

- ①働くことがどういうものか体験したい
- ②就職活動に役立つと思ったため
- ③学んできたことが現場でどう活かされるか知りた
- ④単位を取得するため
- ⑤希望する業種や企業の実務を体験したい
- ⑥教員や職員、先輩、友人、親戚に勧められたため
- ⑦希望とは違う業種や企業を体験して視野を広げたい
- ⑧その他（

)

3 実習先企業を志望した理由を教えてください。（最も当てはまるものを一つだけ選んで、右の枠に番号を記入してください。）

- ①知っている企業であったため
- ②事業内容に興味があったため
- ③実習内容に興味があったため
- ④教員や職員に勧められたため
- ⑤知人・友人が参加するため
- ⑥就職先として興味があったため
- ⑦知らない企業であったが、登録内容を見て興味を持ったため
- ⑧その他（

--	--	--	--	--	--	--

4 企業内実習で得られたことについてお伺いします。

各項目について、該当するものを一つだけ選んで、右の枠に番号を記入してください。

①強くそう思う ②そう思う ③そう思わない ④全くそう思わない

- 1 働くことがどういうことか実感できた
- 2 働くことの厳しさを理解することができた
- 3 働くことのやりがいや充実感を知ることができた
- 4 学生と社会人の責任の違いを感じた
- 5 学んできたことが現場でどう活かされるか知ることができた
- 6 学習意欲が高まった
- 7 自分に足りないものに気付くことができた
- 8 仕事に対する興味や関心が高まった
- 9 業界・職種に対する理解が深まった
- 10 県内企業に対する理解が深まった
- 11 視野を広げて就職先を考えるようになった
- 12 連携や協調性の大切さを感じた
- 13 マナーや常識の大切さを感じた
- 14 コミュニケーションの大切さを感じた
- 15 主体的に取り組むことの大切さを感じた
- 16 挨拶の大切さを感じた

1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16

5-1 企業内実習の期間についてお伺いします。

(実習期間及び、適当であったか該当するものを一つだけ選んで、右の枠に番号を記入してください。)

- 1 ①適当 ②短い ③長い
- 2 2 2～4日
- 3 5日(1週間)
- 4 10日(2週間)
- 5 1か月未満

実習期間	適当か

5-2 ②又は③を選んだ人は、適当だと思う期間を一つだけ選んで、右の枠に番号を記入してください。

- ① 1日 ② 2～4日 ③ 5日（1週間） ④ 10日（2週間） ⑤ 1か月未満
⑥ 1か月以上

--

6 企業内実習の満足度についてお伺いします。（①から④から該当するものを一つだけ選んで、下枠に番号を記入してください。）

- ① 満足している ② どちらかといえば満足 ③ どちらかといえば満足していない
④ 満足していない

- 1 体験した仕事の内容について
- 2 社員との交流・コミュニケーションについて
- 3 今回の企業内実習を総合的に評価して

1	2	3
---	---	---

7 企業内実習の反省についてお伺いします。（①から④から該当するものを一つだけ選んで、下枠に番号を記入してください。）

- ① 強くそう思う ② そう思う ③ そうは思わない ④ 全くそうは覆わない

- 1 事前準備が不足していた
- 2 積極性が足りなかった
- 3 あいさつ、時間厳守などのマナーが守れなかった

1	2	3
---	---	---

8 その他、企業内実習に関する御意見・御要望・御提案・御感想などを記入してください。

御協力ありがとうございました。

企業内実習アンケート（学生用）

学科・学年・氏名	学科 年 氏名〔 〕
実習先	受入企業名〔 〕、現場名〔 〕
実習期間	月 日～ 月 日 合計 日（ 時間）

1 実習人数

- (1) あなたといっしょに実習を行った生徒・学生は何人でしたか。（ 人）
- (2) その人数は適切でしたか。
- ①適切だった。 ②やや多かった。 ③やや少なかった。

2 実習内容

企業で、主にどんな活動・仕事をさせてもらいましたか。（複数回答可）

- ①実務とほぼ同じ作業 ②実務の手伝い
 ③実習用の特別に用意された作業 ④仕事の見学や整理整頓・清掃
 ⑥その他〔 〕

3 実習の成果

- (1) 実習に参加して、得たことを上位から順に5点、箇条書きにしてください。

①
②
③
④
⑤

- (2) 実習に参加して、自分の進路への考え方はどう変わりましたか。

- ①目指していた進路への意欲がすごく高まった。
 ②目指していた進路への意欲がやや高まった。
 ③特に変化はなかった。
 ④目指していた進路に迷いが出てきた。
 ⑤目指していた進路を考え直すきっかけになった。

- (3) 実際の現場で実習したことにより、これまでに学校で学んだことが、より理解できるようになりましたか。
- ① すごく理解できるようになった。
 - ② 少し理解が深まった。
 - ③ 実習に参加しても、学校で理解した程度とあまり変わりがなかった。
- (4) 実際の現場での実習は、これからの学習に役立ちそうですか。
- ① すごく役立つと感じた。
 - ② 少し役立つと感じた。
 - ③ 役立つとは、あまり思わない。
- (5) 実習に参加したことにより、もっといろんなことを広く・深く学びたいという、意欲が高まりましたか。
- ① 今後の学ぶ意欲がすごく高まった。
 - ② 今後の学ぶ意欲が少し高まった。
 - ③ 今後の学ぶ意欲はこれまでと変わらなかった。
- (6) 実習に参加したことにより、礼儀や挨拶・マナーなどの大切さを感じましたか。
- ① すごく実感した。
 - ② 大切さを感じた。
 - ③ 大切さは、あまり感じなかった。
- (7) 実習に参加をしたことにより、日常生活においても礼儀や挨拶・マナーなどに気をつけるようになりましたか。
- ① すごく気をつけるようになった。
 - ② 少し気をつけるようになった。
 - ③ これまでとあまり変わらない。
- (8) 実習に参加したことにより、職業人（監督・職人）の生き方に対する見方が変わりましたか。
- ① これまで以上に強いあこがれと尊敬の念を持つようになった。
 - ② これまでより少しあこがれを持つようになった。
 - ③ これまでの見方とあまり変わらなかった。
- (9) 事前に考えていた職場・現場のイメージと実際は違っていましたか。
- ① ずいぶん違っていた。
 - ② 少し違っていた。
 - ③ ほぼ同じであった。

(10) 前の問い(9)で「①ずいぶん違っていた」、②少し違っていた」と回答した方にお聞きします。どんな点が違っていましたか。箇条書きにしてください。

①

②

③

(11) 職業人（監督・職人）の仕事に対する考え方が分かりましたか。

- ①仕事に対する考え方を知ることができた。
- ②仕事に対する考え方を何となく分かった気がする。
- ③仕事に対する考え方までは、分からなかった。

(12) 前の問い(11)で「①仕事に対する考え方を知ることができた」と回答した方にお聞きします。それはどんな考え方ですか。箇条書きにしてください。

①

②

③

4 実習のあり方

(1) 実習の期間は適切でしたか。（1つ選択）

- ①もっと実習の時間数を増やしてほしい。
- ②適切な時間数であった。
- ③もう少し実習の時間を減らしてほしい。

(2) 安全に気をつけて実習を行えましたか。

- ①十分、安全に気をつけて実習できた。
- ②気をつけたが、徹底することが難しかった。
- ③何に気をつければよいか分からなかった。

(3) 守秘義務があることを自覚し、実習が行えましたか。

①十分に気をつけて実習を行った。

②あまり自覚せずに実習を行った。

③守秘義務とは、どんなことをしてはいけないのか分からなかった。

④守秘義務を違反して、注意を受けた。

5 実習をさらに充実したものにするために、学校や受入企業にどのような工夫をしてほしいですか。改善点があれば箇条書きにしてください。

【学校に対して】

①

②

③

【企業に対して】

①

②

③

学生アンケート

問1 あなたが今年度を受講した(している)「デュアル教育」に期待する(した)ことをお答えください。
(当てはまるものを3つまで選択)

- 1. 講義と実習・演習の連携による理解や活用力等の深化
- 2. 実践的な知識・技能の習得
- 3. 専門的な知識・技能の習得
- 4. 最新の知識・技能の習得
- 5. 今後身につけるべき知識・技能の明確化
- 6. 進路の選択に役立つ業界や仕事に対する理解の向上
- 7. 社会人としての心構えやマナーの習得
- 8. 企業等の方とのコミュニケーション力の向上
- 9. その他
→具体的に:
- 10. 特に期待はなかった

問2 あなたが今年度を受講した(している)「デュアル教育」で行われていたことをお答えください。
(当てはまるものを全て選択)

- 1. シラバスに実習・演習の意義や到達目標がわかりやすく記載されていた
- 2. 実習・演習の開始前にその意義や到達目標がしっかり伝えられていた
- 3. 開始前の事前学習で実習・演習の内容を正しく説明されていた
- 4. 開始前の事前学習や個人の準備に十分な期間が取られていた
- 5. 実施中に企業等の講師による指導がしっかり行われていた
- 6. 実施中に学校の先生によるフォローがしっかり行われていた
- 7. 実習・演習で直接的に活用できる内容の授業が学校で行われていた
- 8. 安全に実習・演習を実施するための指導や配慮が行われていた
- 9. 実習・演習の現場での人間関係や環境に関するトラブル等へのフォローがしっかり行われていた
- 10. 実施後に到達目標が達成されたかを確認する場が設けられていた
- 11. その他
→具体的に:

問3 あなたが今年度を受講した(している)「デュアル教育」の中で、困ったことや不安だったことがあれば、自由にお答えください。

(ご記入いただく観点の例)

- ・現場で困ったこと、不安だったこと、戸惑ったことはあるか。
- ・学校の授業で学んだことを実習・演習で活かせたか。
- ・実習・演習の内容や現場での待遇は、事前に聞いていた通りだったか。

問4 「デュアル教育」を受講して、以下のことが達成できましたか？
(それぞれ当てはまるものを1つ選択)

(1) 講義と実習・演習の連携による理解や活用力等の深化
<input type="radio"/> 1. 達成できた <input type="radio"/> 2. やや達成できた <input type="radio"/> 3. あまり達成できなかった <input type="radio"/> 4. 達成できなかった
(2) 実践的な知識・技能の習得
<input type="radio"/> 1. 達成できた <input type="radio"/> 2. やや達成できた <input type="radio"/> 3. あまり達成できなかった <input type="radio"/> 4. 達成できなかった
(3) 専門的な知識・技能の習得
<input type="radio"/> 1. 達成できた <input type="radio"/> 2. やや達成できた <input type="radio"/> 3. あまり達成できなかった <input type="radio"/> 4. 達成できなかった
(4) 最新の知識・技能の習得
<input type="radio"/> 1. 達成できた <input type="radio"/> 2. やや達成できた <input type="radio"/> 3. あまり達成できなかった <input type="radio"/> 4. 達成できなかった
(5) 今後身につけるべき知識・技能の明確化
<input type="radio"/> 1. 達成できた <input type="radio"/> 2. やや達成できた <input type="radio"/> 3. あまり達成できなかった <input type="radio"/> 4. 達成できなかった
(6) 進路の選択に役立つ業界や仕事に対する理解の向上
<input type="radio"/> 1. 達成できた <input type="radio"/> 2. やや達成できた <input type="radio"/> 3. あまり達成できなかった <input type="radio"/> 4. 達成できなかった
(7) 社会人としての心構えやマナーの習得
<input type="radio"/> 1. 達成できた <input type="radio"/> 2. やや達成できた <input type="radio"/> 3. あまり達成できなかった <input type="radio"/> 4. 達成できなかった
(8) 企業等の方とのコミュニケーション力の向上
<input type="radio"/> 1. 達成できた <input type="radio"/> 2. やや達成できた <input type="radio"/> 3. あまり達成できなかった <input type="radio"/> 4. 達成できなかった

問5 あなたの経験を踏まえて、「デュアル教育」をより充実させるための提案があれば、自由にお答えください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

企業内実習アンケート（受入企業用）

企業名				
実習期間	月 日～	月 日	合計	日

今後の企業内実習のあり方を検討する資料としますので、次の事項についてお答えください。

1 事前の準備・打ち合わせ等について

(1) 学校が事前に準備しておく必要があるものは、どんなものですか。（複数回答可）

- ①学生の自宅住所や連絡先を書いた名簿
- ②学生の仕事や将来に関する考え方を書いた作文
- ③その他、必要と思われるもの。

(2) 学校が事前に指導する必要があることは、どんなことですか。（複数回答可）

- ①安全に関する知識と注意事項
- ②守秘義務に関する知識と注意事項
- ③その他、必要と思われるもの

(3) 学校と事前に打ち合わせておく必要があるものは、どんなことですか。（複数回答可）

- ①学生が怪我、病気になったときの対応方法
- ②学生の学校での様子、個性など
- ③その他、必要と思われるもの

2 企業内実習を円滑に行うにあたっての学生の知識や障害について

(1) 実習を行う学生は、どの程度の建設の知識が必要ですか。（1つ選択）

- ①実習を行う内容について、学校で学んでおく必要がある。
- ②実習を行う内容について、できれば学校で学んでおいたほうがよい。
- ③基本的なことが理解できていれば、実習で行う内容を学校で学んでいなくてもよい。
- ④実習で行うことと、学校で学ぶことは、直接、結びつかなくても、将来の全般的な資質・能力の向上につながればよい。
- ⑤その他

(2) 実習の障害となるのはどんなことだと思われますか。(複数回答可)

- ①建設に関する知識の不足
- ②職種に必要な技能の不足
- ③安全に対する知識の不足
- ④守秘義務に関する意識の希薄さ
- ⑤礼儀や挨拶等の基本的な社会生活上のマナーの欠如
- ⑥ルールを守る規範意識の欠如
- ⑦実習への活動意欲の低さ
- ⑧積極的に学ぼうとする能動性の低さ
- ⑨コミュニケーション能力の低さ
- ⑩職場に馴染もうとする協調性の低さ
- ⑪他者への思いやりの心の低さ
- ⑫その他

(3) 実習中に問題となることがありましたか。(1つ選択)

- ①なかった。
- ②あった。それは、どんなことですか。

3 企業内実習の意義について

(1) この実習を通して、学生たちに特にどんなことを習得してほしいと思われますか。

(2つ回答)

- ①建設や職種に関する知識・技能
- ②現場の仕事の大まかな流れ
- ③現場の雰囲気
- ④自分は仕事ができないことを実感したこと
- ⑤自分の志望と現実の職場とのギャップ
- ⑥安全に関する知識や態度
- ⑦社会生活上のマナーや規範意識
- ⑧協力することの大切さや他人とのネットワークの必要性
- ⑨働く人たちの仕事に対する考え方・姿勢
- ⑩座学(授業)と社会(現場)の違い
- ⑪その他

(2) 実習受入企業にとって、どのような意義がありましたか。(複数回答可)

- ①少しは仕事の役に立った。
- ②若い学生が実習に来たことにより、職場の雰囲気がいぎやかになった。
- ③若い職員に学生を指導させたため、その職員の勉強になった。
- ④企業にとって、直接的なメリットはなかった。
- ⑤その他

4 企業内実習全体を振り返って

(1) 実習受入企業にとって、どんなことが大変だったですか。(複数回答可)

- ①学生に行わせるプログラム作りが大変だった。
- ②仕事が忙しくて、学生を指導する職員がいなくて困った。
- ③学生が消極的で一つ一つ指示しないと動かないので困った。
- ④学生の安全面の配慮で、大変に気をつかった。
- ⑤仕事か忙しく、毎日、日報に目を通すのが大変だった。
- ⑥学生の評価を依頼されたが、ずっと観察していないので評価することが難しかった。
- ⑦特に、大変なことはなかった。
- ⑧その他

(2) 特に企業として、ご配慮いただいたことは、どんなことですか。(複数回答可)

- ①建設業に興味を持たせるため、実習プログラムを工夫した。
- ②現場の実際の様子を体験させるため、職員の一員として仕事に取り組みさせた。
- ③職場に馴染ませるため、若い職員を指導係にした。
- ④その他

(3) どのような考えのもと、実習を受け入れていただいたか、お聞かせください。

(複数回答可)

- ①社会が求めている即戦力の育成に貢献するため、実習を受け入れた。
- ②地元の建設業で働く人材を確保するため、実習を受け入れた。
- ③学生に現場の実際を体験させ、早期退職等のミスマッチを防ぐことに尽力するため、実習を受け入れた。
- ④その他

企業等アンケート

問1 「デュアル教育」を受け入れた目的についてお答えください。(当てはまるものを3つまで選択)

- 1. 貴社・貴施設が求める知識・技能を身につける教育の実現
- 2. 貴社・貴施設が求める知識・技能を身につけた卒業生の採用
- 3. 連携する専修学校とのネットワークの強化
- 4. 連携する専修学校の教育活動への寄与
- 5. 業界全体の発展への寄与
- 6. 地域社会への貢献
- 7. 学生を指導させることによる貴社・貴施設従業員等の育成
- 8. 貴社・貴施設の事業へ学生のアイデアを活用
- 9. その他

→具体的に:

問2 「デュアル教育」の目的の達成状況についてお答えください。

問3 「デュアル教育」の実施にあたっての体制や役割分担(負担)について、ご意見があれば、自由にお答えください。

(ご記入いただく観点の例)

- ・学校との役割分担の妥当性
- ・実習に要する材料/機器等の負担の状況及び改善案
- ・実習を指導する社員・職員の時間的負担の状況及び改善案

問4 「デュアル教育」の実施や充実にあたり、期待や改善を望む点などがあれば、自由にお答えください。

(ご記入いただく観点の例)

- ・実習・演習の内容、期間、時間配分等
- ・実習・演習期間中の学校のサポート体制
- ・必要と考える資料やツール

問5 本校出身者の状況についてお答えください。

(1)直近の採用人数

過去3年間の新卒採用者数の合計		人
(うち本校卒の新卒採用者数の合計)		人

(2)専修学校出身者に求めるスキルや特徴

専修学校出身者に求める専門知識やスキル等についてお書きください。

(3)本校出身者の状況

本校出身者の勤務の状況、長所・短所等についてお書きください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

元号 年 月 日

●●●● (医療機関名) 実習ご担当者様

●●専門学校
学校長 ○○ ○○

医療事務実習アンケート(実習プログラムアンケート)ご協力をお願い

拝啓 ○○の候、貴院ますますご隆盛のこととお喜び申し上げます。今年度も本校の医療事務実習の取り組みに格別のご高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。

次年度以後も学生指導、実習プログラムのより一層の充実をはかってまいりたいと存じます。つきましては、お忙しい中とは思いますが、以下の医療事務実習アンケートのご協力をお願いしたく、何卒宜しくお願い致します。記入後はお手数ですが、同封の返信用封筒にて本校実習担当 ●●までご返送をお願い致します。

ご不明な点がございましたら、以下までお問合せ下さい。

問合せ先 ●●●●専門学校
担当者 ●● ●●
連絡先 ●● - ●●●● - ●●●●

敬具

◇医療事務実習受入に関するアンケート

次の①～④の設問について、当てはまるものの回答欄に○をつけて下さい。
1以外に○をつけた設問については、コメント欄に具体案をご記入下さい。

①実習の依頼時期は適切でしたか

	項目	回答欄	コメント欄
1	適切だった		適切と思われる理由等ご記入下さい
2	もっと早い方が良い		具体的な時期をご記入下さい（ 月頃）
3	もっと遅い方が良い		具体的な時期をご記入下さい（ 月頃）

②実習の依頼方法は適切でしたか

	項目	回答欄	コメント欄
1	適切だった		貴院へのご依頼方法、適切と思われる理由をご記入下さい
2	別の方法が良い		具体的な依頼方法を次からお選び下さい 電話、訪問、郵送、メール、その他（ ）

③実習に関する書類は適切でしたか

	項目	回答欄	コメント欄
1	適切だった		適切と思われる理由等ご記入下さい
2	適切ではなかった		適切ではないと思われる理由をご記入下さい

④実習前の学校での事前学習については適切でしたか

	項目	回答欄	コメント欄
1	適切だった		適切と思われる理由をご記入下さい
2	適切ではなかった		適切ではないと思われる理由をご記入下さい

⑤実習の評価方法については適切でしたか

	項目	回答欄	コメント欄
1	適切だった		
2	適切ではなかった		適切ではないと思われる理由をご記入下さい ()

⑥その他、今回の実習プログラムについて、お気づきの点などございましたら、ご記入下さい

--

ご協力ありがとうございました

医療機関名		ご記入者名	
-------	--	-------	--

実習プログラム改善シート 【 体験型 ・ 業務補助型 】

作成日 元号 年 月 日

作成者

●今年度実習の取り組み

1. 実習前		●年度(今年度)実績		コメント欄
実習先選定	開始月			
	完了日			
書類送付	開始月		月	
	完了日		月	
書類返送	完了日		月	
事前学習				

2. 実習中		コメント欄
実習巡回		
実習ノート		

3. 実習後		コメント欄
実習評価(学生)		
実習評価(病院)		
事後学習		

●次年度改善案

項目	改善案	理由	変更に伴う懸案事項

デュアル教育 プログラム評価シート

人材育成上の課題 ……。

教育目標

・・計画を計画書より転記。

協力企業の意見を踏まえて設定、評価

教育目標の妥当性

デュアル教育を受講した学生が、教育目標とした職業能力や資格を習得した後、想定した職業に従事し活躍できているか。

・・総括コメントを記入。

教育内容・方法

・・計画を計画書より転記。

教育内容・方法の妥当性

デュアル教育として設計した講義・実習内容や指導方法により、教育目標である職業能力や資格を学生が習得できているか。

・・総括コメントを記入。

目標と教育内容・方法との適合性の観点から教員が評価

教育体制・コスト

・・計画を計画書より転記。

「継続可能性」を重視

教育体制・コストの妥当性

いまの専修学校、企業等の体制および役割分担(負担)により、デュアル教育を継続的に実施していくことができるか。

・・総括コメントを記入。

卒業生の採用数 ……。

卒業生の活躍状況 ……。

専修学校出身者に求めるスキル ……。

協力企業からの情報収集により記載

計画事項の実施状況 ……。

学生の能力向上の状況 ……。

教育手法の状況 ……。

学生からの改善要望 ……。

企業等からの改善要望 ……。

学生及び協力企業からの情報収集により記載

企業等の協力目的との適合性 ……。

企業等の負担の状況 ……。

校内及び協力企業からの情報収集により記載